

【村岡地区】

災害リスク分析及び防災・減災
まちづくりに向けた課題の整理

1. 災害リスクの考え方

①洪水浸水想定区域（浸水深と建物階数の考え方は高潮浸水想定区域にも適用）

【浸水深 5m以上】

- ・ 3 階部分が浸水する可能性があり、災害リスクが極めて高いため、早期の水平避難が望まれる

【浸水深 3m～5m未滿】

- ・ 最大で 2 階部分が全て浸水する可能性があるため、1～2 階建物において災害リスクが高い

【浸水深 0.5m～3m未滿】

- ・ 最大で 1 階部分が全て浸水する可能性があるため、1 階建物において災害リスクが高い

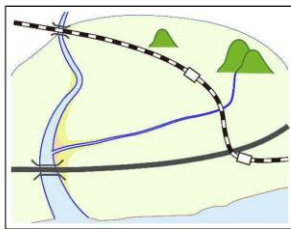
【浸水深 0.5m未滿】

- ・ 1 階床下浸水のため、1 階建物でも災害リスクが低い

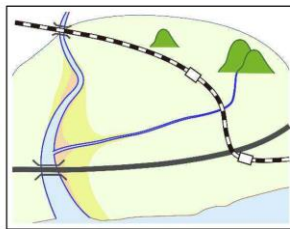
【参考】洪水の発生頻度と浸水被害の関係性



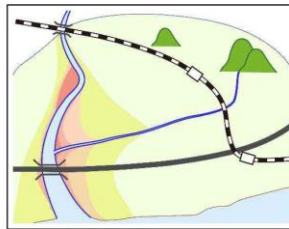
【高頻度】



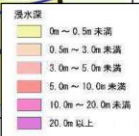
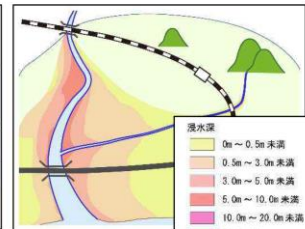
【中頻度】



【計画規模】



【想定最大規模】

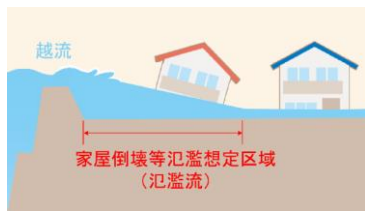


出典：立地適正化計画作成の手引き

②家屋倒壊等氾濫想定区域

【氾濫流区域】

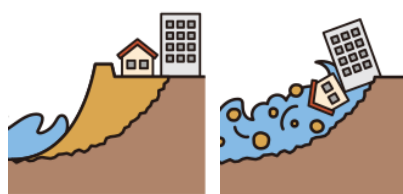
- ・ 流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがある



出典：神奈川県家屋倒壊等氾濫想定区域図

【河岸浸食区域】

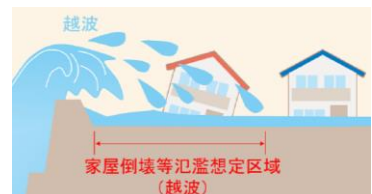
- ・ 地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがある



出典：新たな避難情報に関するポスター・チラシ(内閣府)

【越波区域】

- ・ 越波の発生により家屋が流出・倒壊するおそれがある

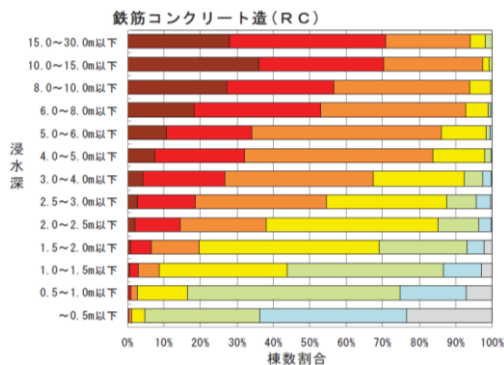


出典：神奈川県家屋倒壊等氾濫想定区域図

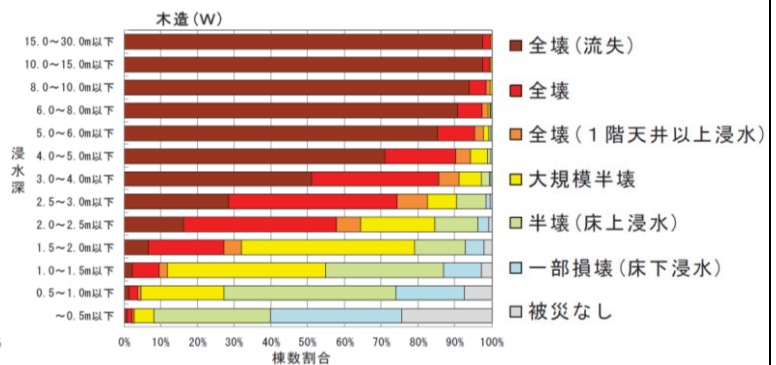
③津波浸水想定区域

- ・東日本大震災からの復興に向け、国土交通省が行った調査結果により、浸水深 2m以上の区域における木造建物は全壊するリスクが高い傾向にあると考えられる

<RC 造における浸水深ごとの建物被災割合>



<木造における浸水深ごとの建物被災割合>



出典：津波被災市街地復興手法検討調査（とりまとめ (H24.4)）

④内水浸水想定区域（下記の考えは洪水浸水想定区域にも適用）

【浸水深 50cm 以上】

- ・転倒した場合には溺れる危険がある
- ・「藤沢市地域防災計画」では、「避難すべき区域」に位置付けられている

【浸水深 30cm】

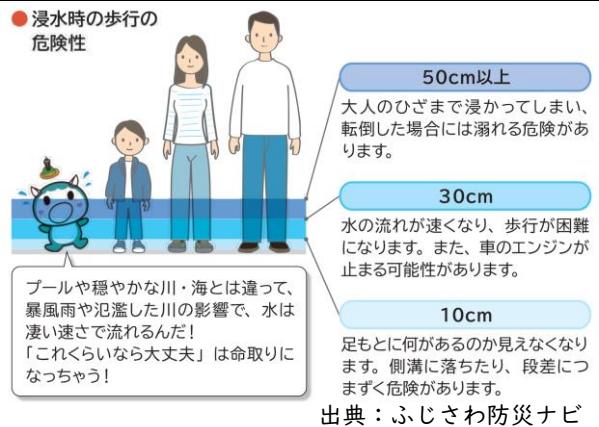
- ・歩行が困難になり、車はエンジンが止まる可能性がある

【浸水深 10cm】

- ・側溝へ落ちる、段差につまずく危険がある

【参考】浸水深と施設等の機能低下の関係性（水害の被害指標分析の手引（H25 試行版））

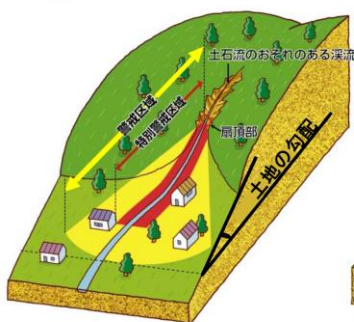
- ・医療施設（例）浸水深 30cm：自動車（救急車）の走行困難、災害時要援護者の避難が困難な水位
- 浸水深 50cm：徒歩による移動困難、床上浸水
- 浸水深 70cm：コンセントに浸水し停電（医療用電子機器等の使用困難）



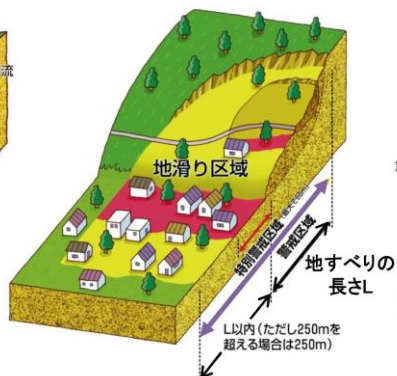
出典：ふじさわ防災ナビ

⑤土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

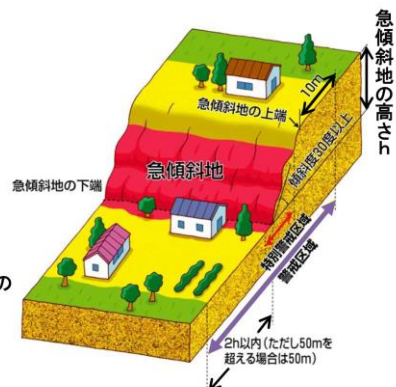
【土石流】山腹が崩壊して生じた土石等又は溪流の土石等が一体となって流下する自然現象



【地滑り】土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象又はこれに伴って移動する自然現象



【急傾斜地の崩壊】傾斜度が30°以上である土地が崩壊する自然現象



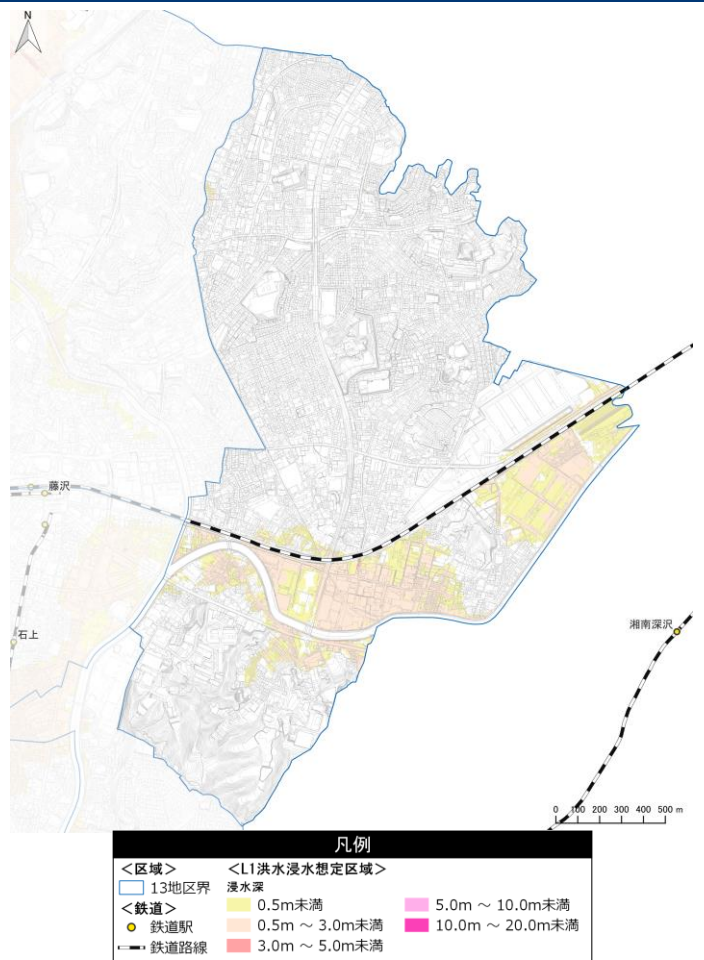
出典：立地適正化計画作成の手引き

2. 村岡地区カルテ

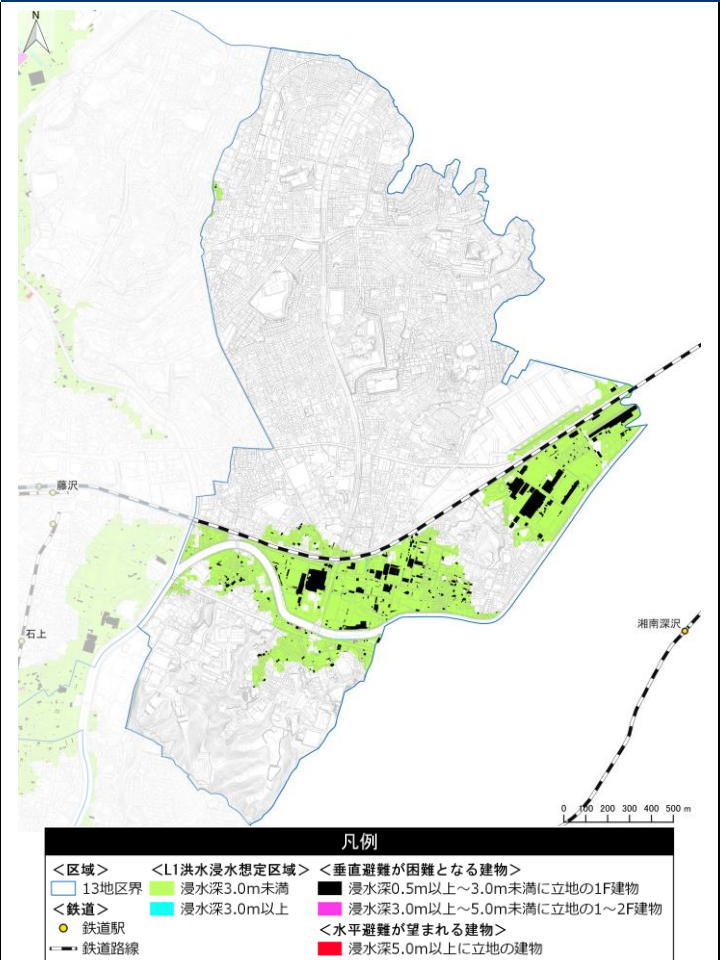
① 地区概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の総人口は、31,954人と全市民の7.2%が居住（R4.10時点） ・ 地区内には、境川、柏尾川、滝川が流れているため、水災害のリスクが高い ・ 土砂災害リスクも多数存在 		
② 防災・減災の課題	<p>【洪水】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画規模では災害リスクの高いエリアはみられないが、想定最大規模では弥勒寺1丁目、川名1丁目、弥勒寺、小塚、高谷、宮前において浸水深3m以上が指定され、垂直避難が困難な建物が多くみられる ・ 境川、柏尾川、滝川沿いには家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）が指定されており、当該エリアには複数の建物が立地している。また、宮前の柏尾川沿いでは家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）が指定されており、当該エリアには複数の木造建物が立地している <p>【内水】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弥勒寺1丁目、川名1丁目には、避難すべき区域に建物が多く立地している（浸水深0.5m以上） <p>【土砂・急傾斜地】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川名、川名2丁目、弥勒寺2・4丁目、弥勒寺、宮前、渡内1・3・4丁目、藤が岡3丁目等において、災害ハザードエリア内に建物立地が多くみられる 		
③ 定量分析	災害種別	災害ハザードエリア面積及び地区内割合	災害ハザードエリア内の建築物及び地区内割合
	【計画規模】洪水浸水想定区域	61.5ha（14.5%）	1,313棟（13.4%）
	【想定最大規模】洪水浸水想定区域	159.1ha（37.5%）	3,397棟（34.6%）
	【想定最大規模】氾濫流	5.5ha（1.3%）	132棟（1.3%）
	【想定最大規模】河岸浸食	19.0ha（4.5%）	505棟（5.1%）
	津波浸水想定区域	0.0ha（0.0%）	0棟（0.0%）
	高潮浸水想定区域	0.0ha（0.0%）	0棟（0.0%）
	【高潮】氾濫流	0.0ha（0.0%）	0棟（0.0%）
	【高潮】越波	0.0ha（0.0%）	0棟（0.0%）
	内水浸水想定区域	136.2ha（32.1%）	4,426棟（45.0%）
	土砂災害警戒区域	24.9ha（5.9%）	514棟（5.2%）
	土砂災害特別警戒区域	7.9ha（1.9%）	163棟（1.7%）
	急傾斜地崩壊危険区域	0.8ha（0.2%）	8棟（0.1%）
④ 避難施設	地区防災拠点本部		1施設
	指定避難所		1施設
	指定緊急避難所		10施設
	津波避難ビル		1施設

⑤災害現況及びリスク分析

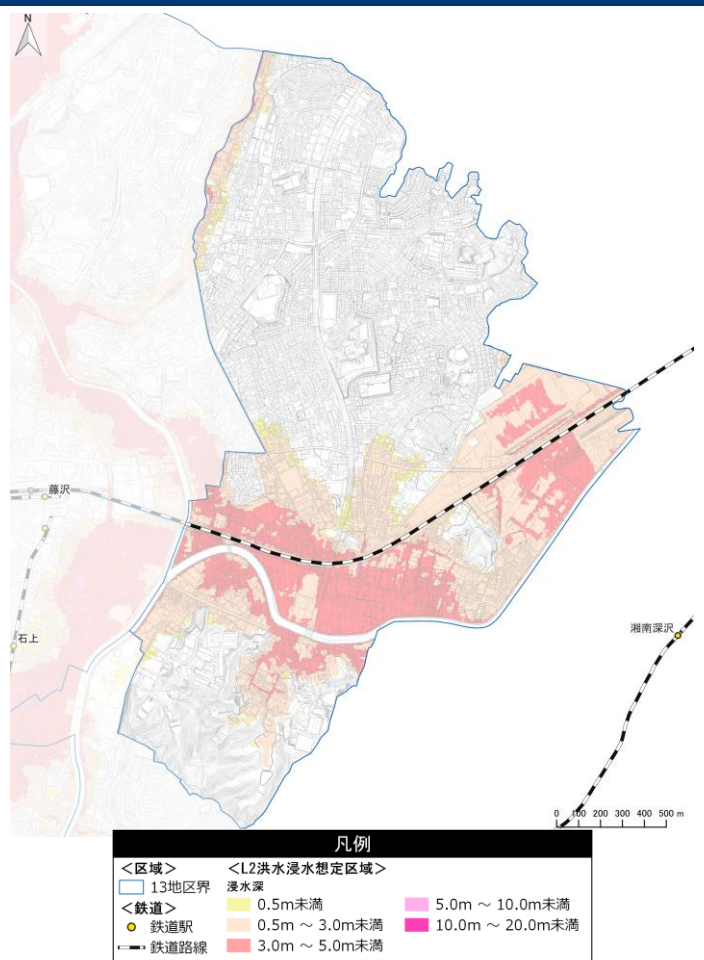
【計画規模】洪水浸水想定区域



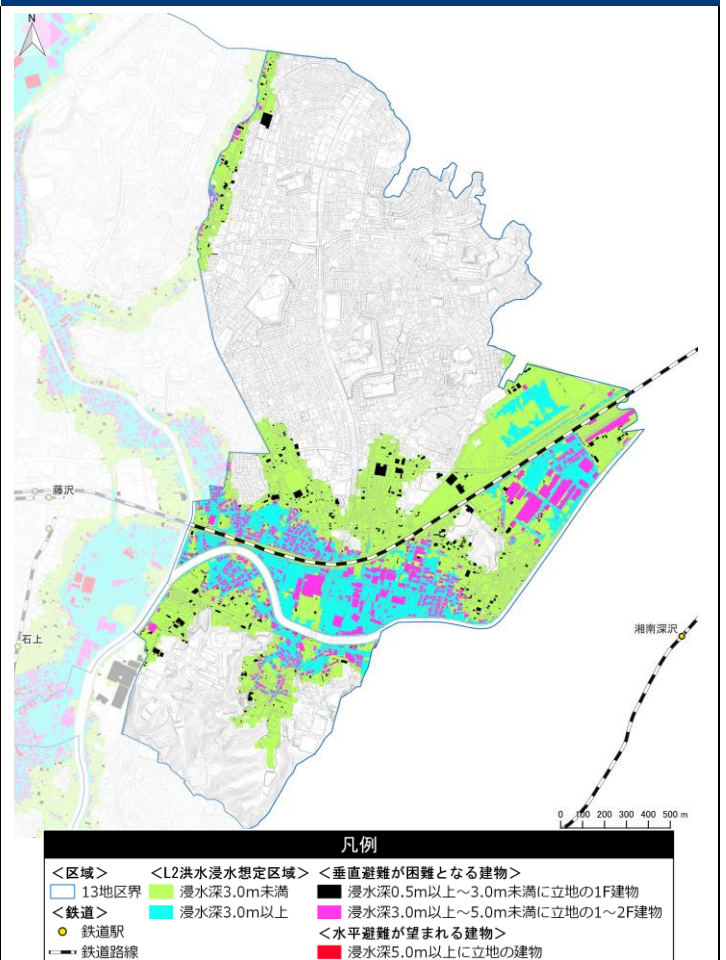
【計画規模】洪水浸水想定区域×建物



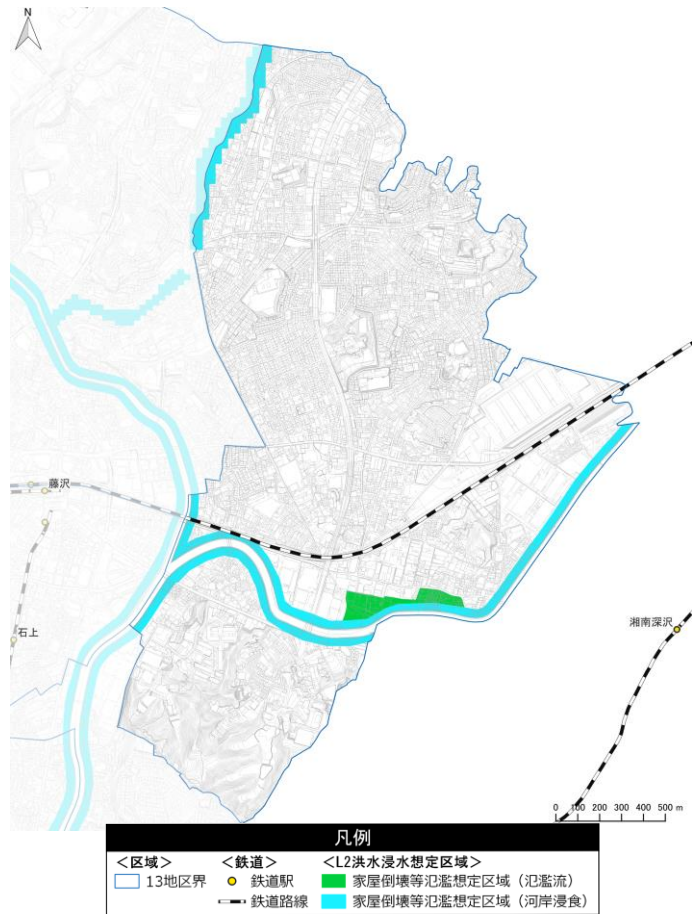
【想定最大規模】洪水浸水想定区域



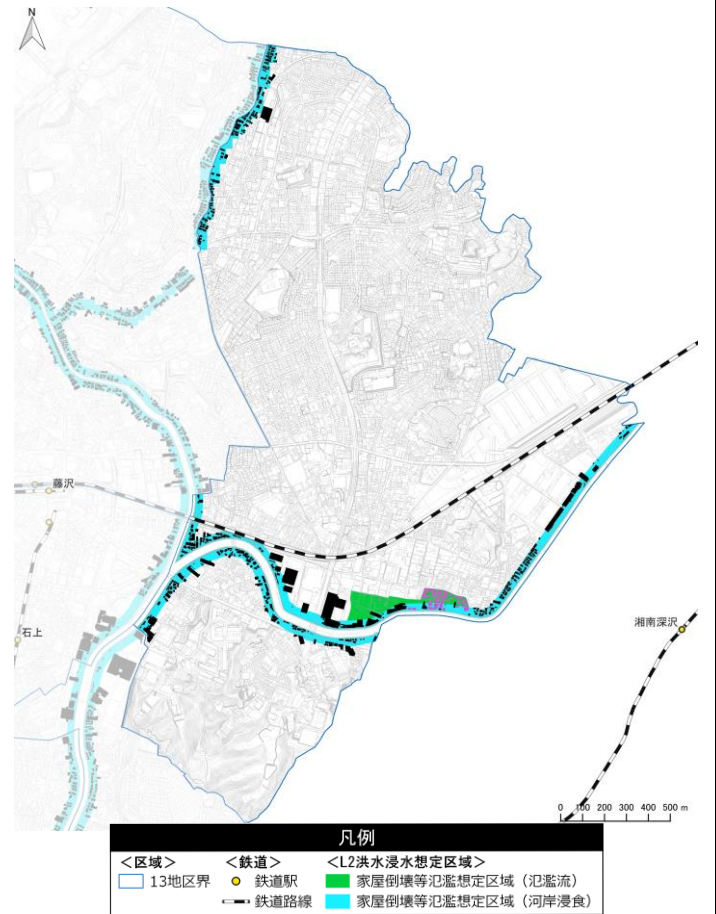
【想定最大規模】洪水浸水想定区域×建物



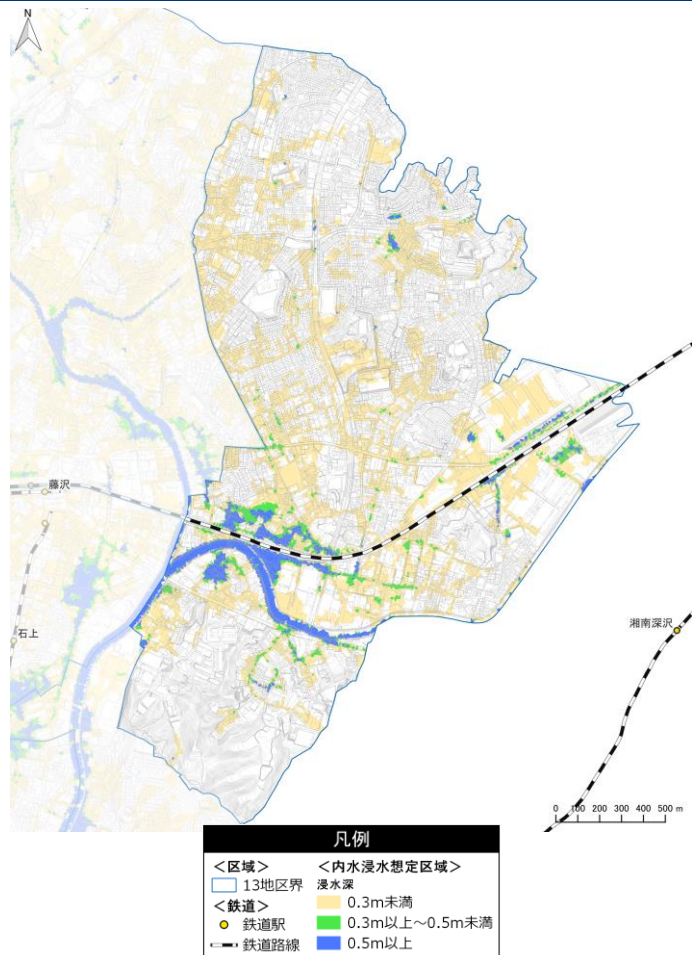
【想定最大規模】家屋倒壊等氾濫想定区域



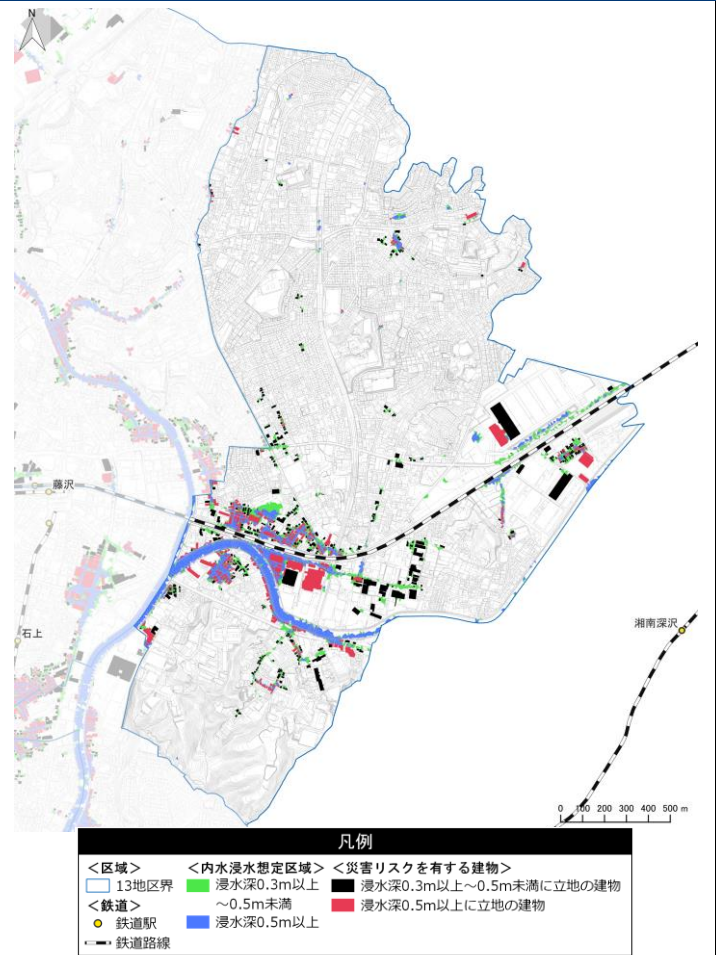
【想定最大規模】家屋倒壊等氾濫想定区域×建物



内水浸水想定区域

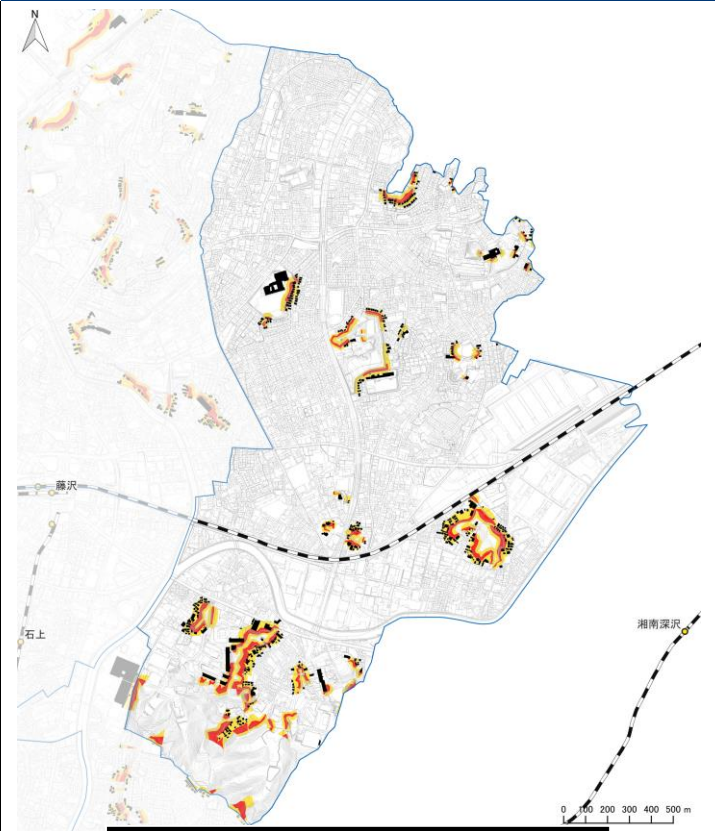
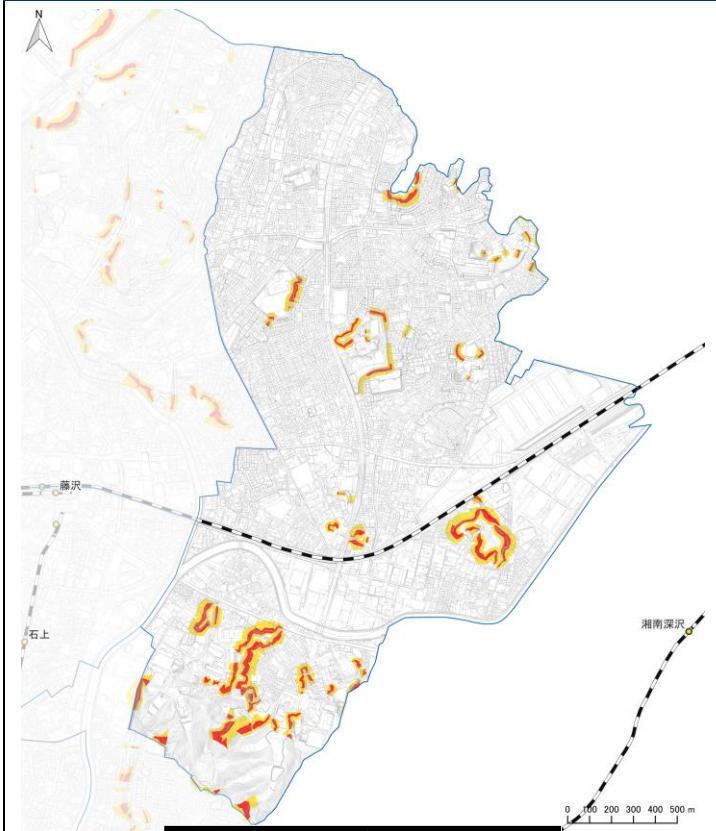


内水浸水想定区域×建物



土砂災害（特別）警戒区域

土砂災害（特別）警戒区域×建物



凡例

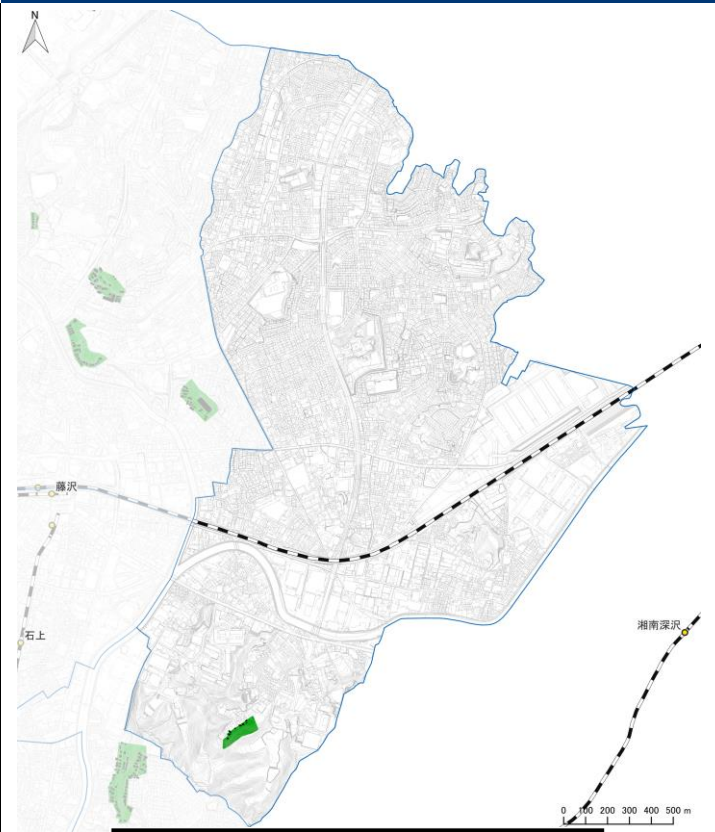
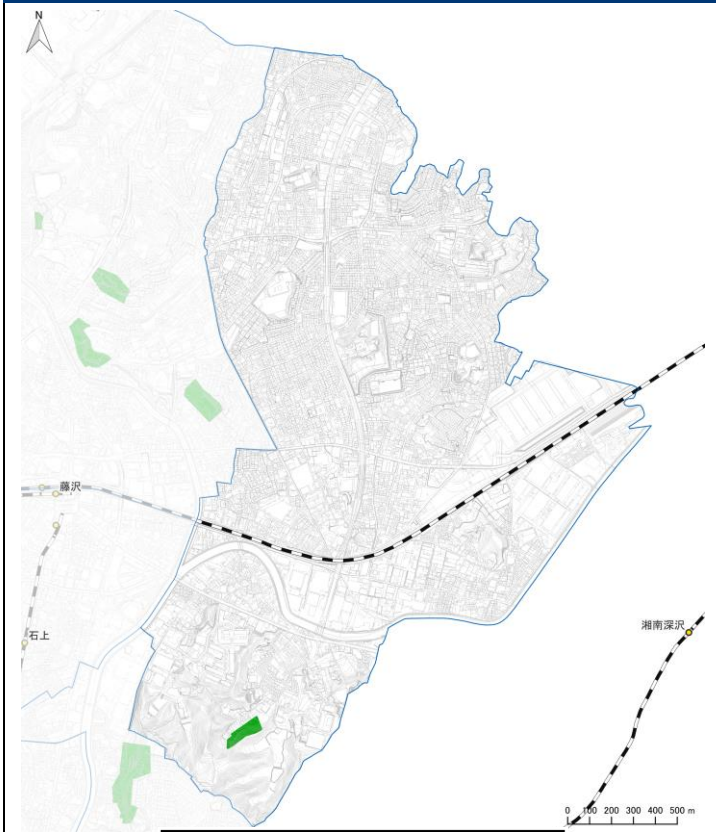
<区域>	<鉄道>	<土砂災害区域>
13地区界	● 鉄道駅	土砂災害警戒区域
	— 鉄道路線	土砂災害特別警戒区域

凡例

<区域>	<土砂災害警戒区域>	<土砂災害リスクを有する建物>
13地区界	土砂災害警戒区域	土砂災害警戒区域内に
<鉄道>	土砂災害特別警戒区域	立地の建物
● 鉄道駅		
— 鉄道路線		

急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域×建物



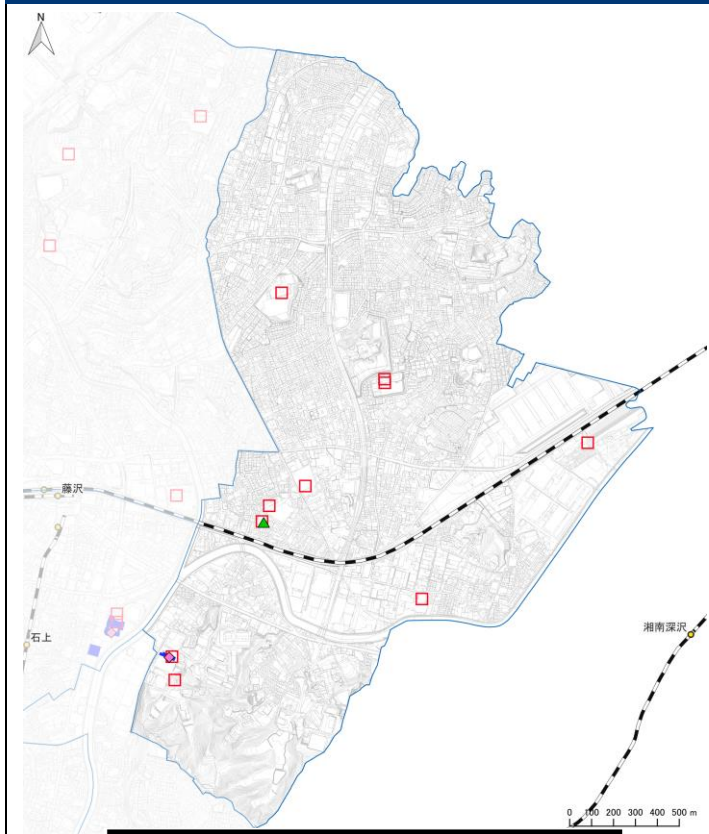
凡例

<区域>	<鉄道>	<土砂災害区域>
13地区界	● 鉄道駅	急傾斜地崩壊危険区域
	— 鉄道路線	

凡例

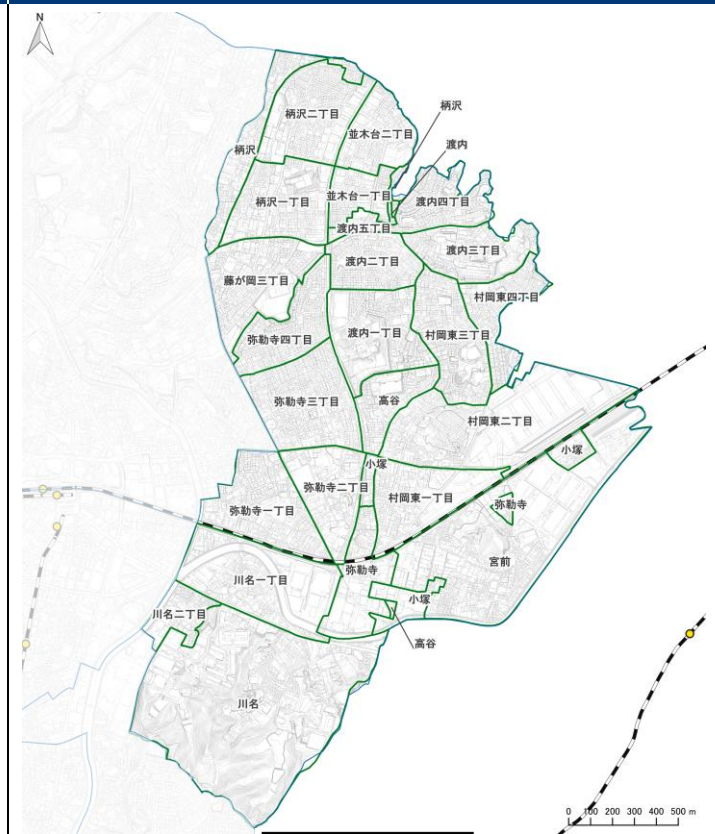
<区域>	<鉄道>	<急傾斜地崩壊危険区域>
13地区界	● 鉄道駅	急傾斜地崩壊危険区域
<土砂災害リスクを有する建物>		
		急傾斜地崩壊危険区域内に立地の建物

【参考】避難施設



凡例			
<区域>	<鉄道>	<避難施設>	
13地区区界	● 鉄道駅	▲ 地区防災拠点本部	□ 指定緊急避難場所
— 鉄道路線	◆ 指定避難所	■ 津波避難ビル	

【参考】町丁目位置図



凡例	
<区域>	<鉄道>
13地区区界	● 鉄道駅
町丁目区界	— 鉄道路線